



## 世界初「インキツボ周辺の自動化」に成功

アイマー・プランニング株式会社

代表取締役 小島 匠 氏

世界で初めて分割ダクターローラーの実用化に踏み切り、次いでインキツボの自動洗浄化にも成功。「インキツボ周辺の完全自動化システム」を完成させた。「生産性25%アップ」のキャッチフレーズは、昨今の業界に十分すぎるインパクトを与える。昨年出展したJGAS2005でも多大な反響を得た。

印刷関連の特許管理業務を主として1991年に創業した同社は、以来「印刷機のスピードがどれほど向上しても、インキツボ周辺の自動化が進まなければ本当の生産性

向上には繋がらない」と、IPC(インキプリセットコントロール)をはじめ、AFC(オートマチックファンテンクリーニング)など、数々のシステム開発を進めてきた。ビジネスフォームやDVD、シール、製罐など関連業界のメーカーでは既に標準装備が進み、昨今注力する枚葉印刷機業界においても「次からは新設機に標準搭載で納入したい」との声も得ている。

現在、海外での販売権を希望する引き合いが多く、数社と話が進んでいる。「当社は

### 連絡先

〒612-8207  
京都市伏見区横大路三栖山城屋敷町108  
電話 075-603-3878 FAX 075-603-3877  
e-mail sec@imer.jp  
URL <http://www.imer.jp>

設計・開発が中心。各メーカーとのライセンス契約を結び、製品を広めていく方針で進めている」というのが基本スタンス。ただ、「大会社に出来ない柔軟性が当社の良さの一つ。現場のニーズを確認した上で設計・開発を行なっているため、インキツボ周辺での要望があれば遠慮なく連絡を頂きたい」と話す。

明年のIGAS2007ではさらに大々的なアピールを行なうという同社。永年の研究の末、開発したオンリーワン技術を世界へ向けて発信する。



## その仕事の“カイゼン”をご提案します

株式会社 共同精機

代表取締役社長 弓倉 清 氏

「必要は発明の母、改善の余地あるところに、創意工夫の源泉がある」…同社は1950年、業界初の油圧断裁機を世に送り出して以来、印刷・製本現場における負荷の軽減と作業性の向上を図るユニークな機器とシステムを開発。小さな技術的創意による業務改善機から、他社機とのコラボレーションによる大きな自動ライン加工システムまで、その守備範囲の広さと自在さが同社の持ち味である。

中でも同社が提唱する「トータルプロセス

シングシステム」は、供給する、綴じる、切る、孔をあける、角を丸くする、積むといった作業毎に使用するモジュールマシン(単能機)を、同社が持つ連結技術でフレキシブルにライン化するというカスタムメイドシステム。ポストプレスを知り尽くした同社のコーディネート力と優れた電子制御技術が可能にしたこの省人・省力化システムには、6つもの特許技術が存在し、他社の追従を許さない武器となっている。弓倉社長は、このライン化のメリットについて「マシンのフル能力でこの

### 連絡先

〒578-0913  
東大阪市中野631  
電話 0729-62-4691 FAX 0729-63-6411  
e-mail kyodo@hct.zaq.ne.jp  
URL <http://www1.newweb.ne.jp/wa/kyodo/>

仕事を何日間で終了できるか…という稼働時間に比例した生産量を確保することが可能になる他、単能機では不可能であった全品計数管理、検査モジュールを組み込むことにより全品の品質保証が可能となる」と説明している。

この他同社では、断裁刃や三方断裁刃、中綴じ刃を全自動で研磨する業界初の無人ナイフ研磨機「トギマス」など、豊富な省力化マシンを通じて、現場における「カイゼン」を提案している。



## 工作技術が支える“機械トラブル救助隊”

協和精機株式会社

代表取締役 秋田 勉 氏

「技術優先」…同社は昭和32年、この想いを胸に現会長である須麻孝行氏が印刷機の修理業として創業、今年で50周年を迎える。

同社は、印刷材料の販売や部品製作、機械移設工事、各種機械設計・製作を手掛け、印刷に関わる幅広い分野で「技術・サービス」を提供。中四国はもとより、京阪神、東京、九州へと営業エリアを拡大し、現在では約500社にのぼるクライアントを抱える「技術集団」へと大きな成長を遂げている。

この成長を支えてきたのが、工作技術で

ある。現在でも国内向けのオーバーホール事業がメインである同社では、得意先の生産ラインを出来るだけ止めずに生産機能を復旧させることを基本としている。しかしオーバーホールには必ずと言っていいほど在庫がない、もしくは生産中止となった部品が必要になる。そこで同社では、豊富な工作機械を設備し、現物や図面から必要な部品を自社内で即座に製作することで、突発的な機械トラブルにも迅速に対応できる体制を整えている。

また技術スタッフについても、印刷に関わ

る幅広い分野に精通した人材を育成することで顧客の信頼を勝ち取っている。その証拠に、災害時などはメーカーから応援の要請があるほどだ。

約4年前に「技術に生きる協和精機」の舵取り役を任された秋田社長。「人の100倍考え、反省し、そして柔軟に対応する。これが我々のテーマである」と語る。緊急時に即座に駆けつける「機械トラブル救助隊」として、今日も車で各地を飛び回り、日々変化する時代に即した「技術」の提供に励んでいる。

### 連絡先

〒733-0034  
広島市西区南観音町15-1  
電話 082-232-0419 FAX 082-295-6355  
e-mail -  
URL -